



会報



THE ROTARY CLUB 鶴岡ロータリークラブ
OF TSURUOKA

齋藤得四郎氏 絵

第685回例会 1973.1.9 (火) しぐれ No.26

あけまして

おめでとうございます

ことしも「もう一度見直して」進みましょう

■出席報告

本日の出席

会 員 数	63名
出 席 数	45名
出 席 率	71.43%

前回の出席

前回出席率	74.60%
修正出席数	49名
確定出席率	77.78%

欠 席 者

阿宗君、阿部(公)君、風間君、森田君、
平田君、池内君、五十嵐(三)君、五十嵐
(一)君、金井君、嶺岸君、三浦君、中山
君、廖君、斎藤(信)君、篠原君、小松君
富樫君、藪田君

メークアップ

阿宗君—新庄RC
風間君—鶴岡西RC

会報はご家族みんなで読みましょう

■ビジター

田宮長二君—温海RC

後藤勇一君—酒田RC

羽根田正吉君、半田茂弥君、菅原年雄君

工藤武樹君、庄司満君、原田行雄君

鶴岡西RC

■会員お誕生月

海東与蔵君、三井健君、岩網末松君

佐藤伊和治君

■奥様お誕生月

池内俊様、五十嵐とし様（三郎君）

岩網恵美子様、中野悦子様、谷口美代子様

高橋美津子様、津田満里子様

■年間皆出席

13年間皆出席 張 紹淵君

12年間皆出席 三井 徹君

12年間皆出席 嶺岸光吉君

12年間皆出席 鷲田克己君

1年間皆出席 今野成行君

12月100%出席 45名

阿宗君、阿部(公)君、阿部(襄)君、風間君、安藤君、張君、森田君、長谷川(悦)君、早坂(源)君、佐藤(順)君、市川君、飯白君、石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、五十嵐(一)君、五十嵐(八)君、今野君、海東君、田中君、金井君、上林君、小花君、小池君、中野君、嶺岸君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、小野寺君、大川君、廖君、斎藤(得)君、佐藤(忠)君、鈴木(善)君、新穂君、笹原君、鈴木(弥)君、高橋君、小松君、手塚君、富樫君、上野君、鷲田君、藪田君

■会長報告

新春あけましておめでとございます。私、会員の皆様に一々ご挨拶に参するべき所でありましたが略させていただきます。本例会は年度の始めでありますので、当クラブ

の益々の発展と会員相互の親睦、健康を祝して乾杯したいと思います。

全員で 乾杯!

○南米のニカラカ地震の罹災者に対してお見舞を各ロータリークラブより抛出したらどうかと云う提案が安齊バストガバナーと地区の世界社会奉仕委員長よりもたらされておりませう。当クラブとしての取扱いについて、当クラブの国際奉仕委員会に付託いたしますので委員会でご協議願います。

○今回始めてですが、アジア地区選出の国際ロータリー理事を選出することとなりこの候補者が10名選出されております。その中で候補者の順位を定めて欲しい旨の通知が入っております。理事会で討議しましたが、当クラブとしての順位を決め方を小花君、張君、早坂君の3名に一任したいとの理事会の結論となりました。会員のご賛同をお願いしませう。

■幹事報告

○会報到着

八戸RC、東京RC

○例会変更

山形RC 1月10日 PM 5時30分

嘯月 新年会

山形南RC 1月16日 RM 5時30分

嘯月 新年会

○チャーターナイトの仮登録申込

三島西RC、富山西RC

○定例理事会報告

(1)新年に入り年度も後半に移ってきたわけですが4月のインターシティーミーティング、鶴岡西クラブの主催する地区協議会、地区大会の準備等の大きな行事が待ちかまえております。何卒会員の充実したクラブ活動の協力をお願いします。

(2)新会員選衝について、夫々の手続が終了しましたので各推選者にその旨通知いたしました。

(3)庄内分区の会長、幹事会議が1月19日産業会館第1会議室で開催されます。

「地区大会協力の件」

「インターンテーターミーティングの件」

「遊佐クラブに交換学生が来るに当りその協力の件」

など三井分区代理を中心にして色々協議したいと思います。

(4)先日嶺岸君の御母堂が急逝されました12月30日会長幹事で会葬してまいりました。クラブより盛花を添えましたのでご了解下さい。

(5)本日の理事会に地区大会幹事であります石黒君をオブザーバーに加え協議した件ですが地区大会を開催するに当り会員皆様のご協力をお願いしなければならない。具体的には大会補助分担金と当クラブより選出します、早坂ガバナーノミニーに対する餞別を含めて会員1名当り金25,000円の特別追加負担をお願いしたい。負担の方法を大会運営委員会にて検討した結果、一括でなく今年後半会費に5,000円を加算して35,000円来年前半、後半会費加算10,000円で夫々40,000円づつ会費の増額として徴収したい旨の結論となりました。そこで定款の一部変更となるため次の例会を臨時総会に変更し、この提案の賛否をとり決定したいと思います。(尚今回の増額部分には大会に於ける会員と奥様の登録料が含まれております。

▷生き甲斐について

新しい 年のはじめに みんなで
ゆっくり 考えてみませんか

スピーカー 佐藤 忠君

最近のテレビなどに「生き甲斐」という言葉が出てきます。若い者達が集まっての討論の中で「あなたの生き甲斐は何んですか」又は老人のお集りの中で「あなたの生き甲斐は何ですか」の場面を時々みられることがあると思います。この質問は余り中年層に向かつては出ないで、若い人達が老人の層に集まっている傾向がみられます。

「あの世には持って行けませんよ！」これはロータリーの友11月号中に掲載されている文章の表題ですが、この中に「生き甲斐」に

ついてくわしく説明しておりますので若干紹介いたします。

この文章は米国の著名な心理学者であるmarston氏が書いたものですが、或る時彼は2,997人の人々に「あなたの生き甲斐は何んですか」とアンケートを出して集約しましたら、回答者の大多数94%の人々が「将来に何んかのユートピアが待ち受けていることを期待して、ただ現在に耐えている」ことがわかったと云っています。そして彼は「可哀想な人達である、彼等は明日の思惑のために今日の現実を無駄にし、素晴らしい現在の余興に退屈して、もっとよいショーの開幕を待っている人々が多い。だが結局はそれらの人々は待ちぼうけに終るだろう」と語りこのたとえとして「かつて私は、健康そうで裕福な主婦に〈あなたの生き甲斐は何んですか〉とたづねたことがある。すると彼女は〈夫が停年退職し、子供が1人前になるまで我慢できさえすれば、安楽になれると思い、その日が来るのを楽しみに生きています〉と答えた。ところがやがてその日がきて、夫が退職し、子供が結婚したとたん彼女は身も心もべしゃんとなってしまった。彼女は今神経障害に苦しめられている。夫のため子供のために家庭にあって働いていたときに、毎日の生活をもっと価値あるものとするのが出来たかもしれないのに、彼女はただ我慢の日々を過してしまっただけなのだ。その日がすぎ去ったとき彼女がかねて夢見ていた将来は無に帰してしまっただけである」彼は又旅行を例にとって次の様にいっている。「金がたまるまで、あるいは子供が大きくなるまでといって、旅行を将来に延ばしている人々の数は驚ろくほど多い。しかし実際にはそれまで待つ必要はないのだ」と

前者の例として「金と暇ができるまで旅行を先にのぼしていた男が叔母の遺産が入ってきたので〈念願の世界旅行が出来たな〉と云われると彼はくうんできるがこの金を投資にまわせば、退職して海外で暮せるだけの財産が出来たかもしれない〉と将来に目がくらん

で現在を見失う癖がしみこんで結局は旅行を
やらないですごしました」

後者の例として「実によく旅行する家族が
いたが彼等には財産はない。夫婦と3人の子
供で8年も使った古い自動車でも5回も米大陸
を横断している。彼等は貧乏だが自分達がい
ま最もしたいことを、貧乏を理由に先にのば
すことはしない。旅をしたいと云う彼等の願
望はやがては消え失せるかもしれない、がし
かし数々の旅の思い出は、彼等の生活をいつ
までも豊かにすることだろう」と語っていま
す。そして結びに「人間が抱くいろいろな願
望のなかで思いだったら、すぐさま真剣に実
行しなければならぬものは教養を深めたい
と云う願望である」と。米国の心理学者ウイ
リアム・ジェームスは「誰でもある程度は、
知識を深めたいとか、音楽あるいは絵画の素
養を深めたいという気持をもっている。1日
10分間を詩作や瞑想に費やす。1週1～2時
間を音楽の勉強にあてる。そしてそれを長い
間続けければ、豊かな実りが結ばれることにな
る。しかし現実には、人間は毎日の雑事に追
われ自身のもつより大きな可能性を葬る墓穴
を掘っているのである」と。

「明日起るかも知れないことに、自分の注
意を切替えても、現在から脱け出せるわけでは
ない。好むと好まざるとに拘らず人間は現
在に生きている。だが将来に持ち越せるもの
が一つだけある。それは今日をどのように生
きるかという知識である。この知識は毎日の
現実の中に生きることによって得ることができ
るものだ」と語り終えております。

私これを読みながら深く考えさせられました。
そこで私なりに「生き甲斐」について考
えてみました。「生き甲斐」とは、きまった
固定的なものではないと思います。例えば、
戦時中に御国の為に名誉の戦死をとげ、靖国
神社の御魂となることが「生き甲斐」であ
ったと思います。終戦時以降は仕事を起し復興
に努力することが「生き甲斐」でありまし
た。現在は働きすぎる国民とかで如何に余暇
を利用するかなどが問題となっております。

又人間一生を通じ若い時から年をとるまで
「生き甲斐」が変わらないと云うことはないと思
います。これらからみて「生き甲斐」という
ものが時代時代の流れの中に、人間が成長す
る流れの中に変るものがあるとするれば、その
根元は何かという疑問がわいてきます。私は
それは教育社会、家庭自然の諸環境によって
変わってくるのではないかと思います。

生き甲斐は変るかも知れませんが「あの世
には持ってゆけませんよ、！」と云う言葉はま
ちがいありません。あの結びの言葉のように
今日は今日、明日は明日のために今日を犠牲
にし、将来に夢みることのない人生を生き甲
斐をじっくり考え生活してゆきたいもので
す。

[第681回例会におけるスピーチより]